

# EXonetuft systema

**プラークコントロールの難しい部位や、磨き残しがちな部位に最適です。**

## 「患者さんが無理なく続けられるセルフケア」

私たち歯科衛生士はいつもこれを意識し、さまざまなセルフケア用品のなかから患者さんに合ったものを提案しています。今回私がお奨めする「ワンタフトシステム」はライオン独自の「スーパーテーパード毛」採用により、1) 深い歯周ポケットにも入りやすく、2) 歯間ブラシのように毛束を通すことができ、3) 狭い補綴物の隙間にも毛束が滑り込み、セルフケアでは難しい部位・症例に幅広く対応、患者さんの使用も簡単な製品です。是非日々の臨床で有効に活用していただきたいと思います。



医療法人社団 明仁会  
松原歯科クリニック  
歯科衛生士 中田 理恵さん

### 症例1 ワンタフトシステムを右下3-4番叢生部に使用した症例

50代女性

小白歯が舌側に転移しており、セルフケアの難しい部位にワンタフトシステムを使用した症例です(写真1)。この部位には歯間ブラシが通らないため、歯間部にプラークが停滞し、炎症を起こしやすいくなります。

長い毛足と細いスーパーテーパード毛は毛先が三角形になっており、狭い歯間部に簡単に入ります(写真2)。毛先は力を入れなくても簡単に当てることができるため、このように毛先が歯間部に入ったら、毛束が出ないように小刻みに上下に動かすことで、毛が歯間部を無理なく通過するのを実感できます。

#### ポイント

このような部位にはデンタルフロスを使用することが多いのですが、この患者さんは他の部位には歯間ブラシを使用しており、さらに使い方の難しいフロスを増やしてしまうと患者さんの負担になり、継続しづらくなります。特にこのような細かい部位では、患者さん自身も自覚しにくく、磨けている実感を得づらいのですが、実際使ってみると「磨くのが簡単! ブラシが歯と歯の間に入っているのが分かりやすい」とさらにセルフケアの重要性を理解していただくことができました。



写真1



写真2

### 症例2 ワンタフトシステムを左上6番根分岐部に使用した症例

60代男性

ポケットは近心に7ミリ、遠心には6ミリありますが炎症はほとんどみられません(写真1)。

スーパーテーパード毛は歯牙の形態に沿うように平たくポケットの中に入ります。毛先をポケットの中に入れたら、毛束が出ないように左右に振動させるようにして磨きます(写真2)。

歯ブラシを歯周ポケットから歯牙の隅角に沿って、ほうきで掃くように一方向に動かすと歯頸部のプラークもきれいに落とすことができます(写真3)。

#### ポイント

このように、進行してしまった歯周病を良好な状態で維持するには歯科衛生士のプロケアと患者さんによるていねいなセルフケアの両立が必要です。難しい部位へのブラッシングを、患者さんの毎日のセルフケアに導入するには継続的にブラシ圧や当てる角度などを指導することが大切です。この患者さんはきちんとブラシが当たっている目安として「少しクチュクチュする感じ」や「出血の有無」で判断されるそうです。毛先の入れ方を何度か確認することで、患者さん自身も磨けていることを実感できるようになり、一ヶ月に一回のプロケアで良好な状態を維持しています。



写真1



写真2



写真3

### 症例3 ワンタフトシステムを補綴部位に使用した症例

70代 男性

下顎前歯部にブリッジが装着されています。

下顎両側1番のブリッジのポンティック部は歯槽骨の吸収により歯冠長がやや長く(黄矢印)、連結されている右下3番から左下3番は審美性も考慮され、空隙も狭い状態です。普通の歯ブラシでは落としきれずに連結部に帯状にプラークが残っています(写真1)。

食物残渣が停滞しやすいポンティックの下は、毛足の長いスーパーターパード毛が舌側まで抜け、充分磨くことができます(写真2)。

また、連結部から狭い歯間部へは、バス法の要領で斜め45度から当て、上下にゆっくり動かすことで、連結部のプラークも落とすことができます(写真3)。

また、毛先が柔らかいため、歯間乳頭を傷つけることなく磨くことができます。



写真1



写真2



写真3

#### ポイント

審美性を考慮した補綴物には、セルフケア用品の選択が特に重要です。ブリッジのポンティックの下は専用のフロスや歯間ブラシを選択することが多いのですが、狭い空隙に無理に歯間ブラシを通してしまうと歯肉退縮や、根面露出による根面齲蝕の原因になります。患者さん自身も「毛先がきちんと入ったのがわかり、簡単に磨ける」と、歯間部の仕上げ磨きには、毎日ワンタフトシステムを使用しています。患者さんが手軽に使い、磨けている実感もあることで、セルフケア用品のひとつとして定着しています。

### 症例4 ワンタフトシステムを萌出途中の大白歯に使用した症例

11歳 女児

幼若永久歯は初期齲蝕に注意が必要です。

カリエスリスクが高いお子さんの場合、この時点で脱灰していることもよく見受けられます。

また、歯牙は舌側に傾斜して萌出してくるため、咬合面への歯ブラシの当て方は難しくなります(写真1)。

長い毛足のため、低位の歯牙にもヘッド部やネック部が隣在歯にぶつかることなく簡単に入ります(写真2)。毛先が入ったら押し込まずに小刻みに動かして磨くのがポイントです。説明の表現として、「小刻みに」と言うより「毛先を入れたらその場でぐるぐる磨く」と伝えるとイメージがしやすかったようです。また頬側歯頸部を磨くときは(写真3)、遠心から一方向に引くように磨きますが、「後ろから前にスツとなぞるように」と伝えるとうまく磨けるようになりました。歯肉炎を起こしがちな6-7番間にも毛先が入り、きちんと磨けます。

#### ポイント

お子さんの狭い口腔内でのブラッシングは難しく、嘔吐反射を起こすこともあります。そのようなストレスが少なく、簡単に磨ける「仕上げ用歯ブラシ」として導入することでお子さん自身がブラッシングの大切さを理解してくれました。

また毛先にフッ化物配合ジェルを少量つけ、咬合面をブラッシングすることは、初期齲蝕の予防としてもオススメです。



写真1



写真2



写真3



## EXonetuft

◇選べる3種類の毛先

- ・歯肉部にやさしい…EX onetuft S
- ・刷掃力にすぐれた…EX onetuft M
- ・歯周ポケットや狭い部位に毛先が届く…EX onetuft systema

価格と入数

内装入数	20個
メーカー希望 歯科医院様向け価格/個	250円
メーカー希望 患者様向け価格/個(税込み)	315円

※メーカー希望歯科医院様向け価格には消費税は含まれておりません。

# EXonetuft systema

**歯肉縁下バイオフィームへのアタックには、患者さん、歯科衛生士のWケアが効果的です。**

## セルフケアの範囲を広げる「ワンタフトシステム」

歯周治療が終了し、病状が安定、治癒した後も、歯周疾患の進行・再発防止には「SPT（サポータティブ・ペリオドンタル・セラピー）」が不可欠です。患者さんが行う縁上ブラークコントロール＝セルフケアと、私たち歯科衛生士が行う縁下ブラークコントロール＝プロフェッショナル・ケアの両立なくして“健口”維持はありえません。

本来は、歯科衛生士が担う範囲である縁下ブラークコントロールですが、生涯にわたるSPTのプロセスにおいて、患者さんあるいは口腔の状況に応じて、縁下ブラークコントロールの一部をセルフケアに含めていくことを可能にするのが、今回私が推奨する「ワンタフトシステム」です。

もちろん基盤である縁上ブラークコントロールが安定して実行されており、必要性を理解し、技術的にも対応可能であること、患者さん本人に歯の価値観が確認され、モチベーションが確立されていることが前提ですが、セルフケアとプロフェッショナル・ケアの重複部分ができることで、縁下バイオフィームに対してより効果的にアタックできるのです。



渡辺歯科  
歯科衛生士 渡辺 麻理さん

### 症例1 根分岐部病変への使用

60代 女性

下顎第2大臼歯に、根分岐部へ長く入り込むエナメルプロジェクションがあります。歯周ポケットは、頬側：近心3mm・中央10mm排膿・遠心4mm出血、舌側：近心4mm・中央7mm排膿・遠心4mm出血。ルートランクが長く、近遠心の歯根が近接しているため、歯根分岐部は歯肉縁下にあり、頬舌的に歯間ブラシが挿入できない状態です。 **写真1**

この症例のように、根分岐部に限局した幅が狭く深い歯周ポケットは管理が難しく、プロフェッショナル・ケアに負うところが多くなります。従来、患者さんのセルフケアに対しては、歯周ポケット幅に合わせたサイズの歯間ブラシを根尖方向へ使用するように指導していますが、ワイヤーの破折や先端部で歯周ポケット内を傷つけるおそれがありました。

スーパーテーパー毛を採用し、ピンポイントで歯周ポケットに容易に挿入できる「ワンタフトシステム」は、10.5mmと毛足が長いいため、根尖方向への深い歯周ポケットにも到達が可能で、安心して継続使用できます。また、毛足の全長に対してどこまで入ったらポケット底に届いているかなど、患者さん自身も目安にしやすいと思います。 **写真2**



写真1



写真2

#### 指導のポイント

ワンタフトシステムの導入開始当初は、炎症症状が強いために「痛み」「出血」を伴います。ここで患者さんが不安を感じると、習慣化は難しくなります。ですから、事前に「出血の質と量の変化」「痛みの種類と程度」などについて、次のような具体的な表現でわかりやすく説明することが重要なポイントです。

#### 説明例

「ドロッとすぐに固まる赤黒い出血が、徐々にサラッと明るい血が薄く付く程度に変化します」  
 「およそ4日から1週間ぐらいで、出血は目に見えて減少してきます」  
 「ズーンとした重い痛さから、痛痒い感じ、チクチクした感じに変化してきます」 など

これらは、患者さんの病態に合わせて想定してお話しすることが大切です。「痛みと出血」を患者さん自身が意識することは、体調（宿主の抵抗力）と口腔内の症状（病態）、プラークコントロールレベルとの関連性を常に観察（セルフモニタリング）することになり、効果を実感できるので習慣化につながります。

露出歯根面、特に根分岐部の構造上の特徴や下顎臼歯部頬側の唾液供給の少なさによる再石灰化不足などと合わせ、カリエスリスクが高いことも考慮した化学的ブラークコントロールを選択します。フッ化物の利用を積極的に行うことが大切です。「ワンタフトシステム」と併用して、局所に滞留しやすい（粘度の高い）ジェル状歯磨剤を用い、使用後のうがいによるフッ素濃度の低下に配慮した指導に努めています。

#### 使用効果

歯周膿瘍が消失し、辺縁歯肉がタイトになってきました。歯周ポケットは、頬側中央8mm（2mm減少）舌側中央6mm（1mm減少）と浅化し、いずれも排膿が止まりました。当該歯は、歯根分岐部に歯周ポケットは残存するものの、炎症はコントロールされています。

下顎第二大臼歯の歯周ポケットは、遠心10mm、頬舌側中央5mm、近心3mm。水平埋伏智歯は未萌出ですが、プローブで歯周ポケット内に智歯の歯冠を触知できます。咬合面が第二大臼歯に接触しており、咬合面と歯根の隙間にプローブが挿入できます。定期SPTを行っていますが、炎症のコントロールが難しく、遠心歯周ポケットからは自然排膿があります。年に1、2回、多忙で疲労したときは、急性症状に転じていました。【写真1】



写真1

抜歯も選択肢の一つでしたが、かつて反対側の水平埋伏智歯の抜歯が困難であったこと、また抜歯後、第二大臼歯が予後不良で早期に喪失した体験から、今回は保存する方針を選択しました。他にも、臼歯部に限局し歯周ポケットが存在していたため、「システム44H」を常用していました。しかし慢性的な出血、排膿の自覚があり、システムの毛先を歯肉縁下に挿入し微振動を与えるように使用していましたが、頬舌的な歯槽頂にさえぎられて縁下へ届きにくかったようです。【写真2】



写真2

そこで、「ワンタフトシステム」を導入しました。毛先を根尖方向に向けて歯周ポケット内へ挿入する時、毛束を歯冠に圧接すると、タフトが薄く平らに広がり、第二大臼歯遠心と智歯咬合面の隙間をぬって、歯周ポケット内へ深く挿入されます。

指導のポイント

水平埋伏智歯の治療方針は、患者さんの健康状態(全身疾患など)、下歯槽管の位置、組織の再生治癒の可能性、ドナーとしての価値、患者さんの要望などを含めて決定されます。保存を選択した場合、不安を抱えた第二大臼歯の寿命が少しでも延び快適に機能し続けるように、セルフケアを促すことが大切です。同時にセルフケアに努め、定期プロフェッショナル・ケアを続けていても、完全な炎症のコントロールは難しいことを理解していただき、過大な期待を抱かせないことも大切です。

放っておけば、不定期的にトラブルが発生し、第二大臼歯の喪失に向かっていきます。智歯も諸般の条件から代用するのが難しい状況です。「いつまで」の保証はできませんが「利用できる限り、存在の価値は大きく意味がある」と、患者さんと歯科衛生士、双方の納得が必要です。

「ワンタフトシステム」の導入にあたっては、以下の①～④の点を患者さんにきちんとイメージしていただけるよう、伝わりやすい表現を用いて説明しています。

- ① 微振動により歯周ポケット内のバイオフィルムが破壊される。
- ② 嫌気性菌である歯周病関連菌に酸素を送り込む。
- ③ 毛細管現象により、バイオフィルムが吸い上げられ排出される。
- ④ うがいやブラッシングでは薬液が到達しにくい狭くタイトな歯周ポケット内には、ワンタフトシステムに薬液を付けて、直接運び込む。

説明例

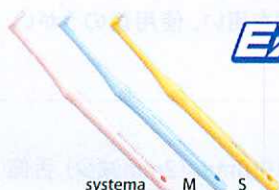
「ズブッと差し込む」「歯に沿って滑り込ませ、クチュクチュと細かく揺らす」  
 「淀んだU字溝にはメタンガスが発生し、流れのあるせせらぎは水が清らか」 など

また、毛細管現象は、実際に口腔内でワンタフトシステムを使用し、歯周ポケット内からの出血が吸い上げられてくる様子を観せながら説明し、理解いただくようにします。

出血量が多い時期は、薬効が血液蛋白に障害されないヨード系の含嗽剤を使用濃度に希釈したもので、血液、膿汁を振り洗いしながら使用します。また、炎症がコントロールされた時期には、バイオフィルムに浸透殺菌する薬剤IPMPが配合されたジェル状歯磨剤をワンタフトシステムに付けて、歯周ポケット内に送り込みます。

使用効果

「毛先に血は付いてこないし、臭うこともなくなった。体調の悪い時は、使用后、毛束を指でつまむと“ネチャ”と粘りがある。そんな時は少し小まめに磨く回数を増やすと戻る」と患者さんによる報告が得られました。「ワンタフトシステム」を導入して4年経過しましたが、急性症状への転化はみられず今日に至っています。



EXonetuft

症状に応じて使い分けられる3つの毛先

- ・ 歯肉部にやさしい EX onetuft S
- ・ すぐれた刷掃力 EX onetuft M
- ・ 歯周ポケットや狭い部位に毛先が届く EX onetuft systema

価格と入数

内装入数	20個
メーカー希望 歯科医院様向け価格/個	250円
メーカー希望 患者様向け価格/個	300円

※価格には消費税は含まれておりません。